



誰ひとり取り残されない社会をつくる学びとは

～国立市公民館のコーヒーハウスの実践から～

全国にはやりたいと思っけていても実現できなかったことをずっと続けている先進的な場がある。平成の中頃まではそんな場所を訪ねて教を乞い、素晴らしい点を模倣してきたものである。かく云う私たちの生涯学習大学も大阪府の池田市や箕面市、京都府の亀岡市などから多くのアドバイスをいただき誕生した。

今回、文部科学省の障害者の生涯学習機会を創造するための実証研究事業の一環で、東京都の国立市公民館を訪問した。国立市公民館はJR国立駅から徒歩10分もかからない場所に立地し、南隣には一橋大学のキャンパスがある都市型公民館である。本市で言えば、公民館のイメージより、生涯学習センターに近い。その施設は、地下一階、地上三階、豊富な蔵書を有する図書室（図書館ではない）や音楽室なども有している。

公民館の建物は築後30年以上経っていることもあり結構古めかしい。しかし、機能性や利便性を越えた特徴がここにはあった。それは「誰ひとり取り残さない」という姿勢である。玄関横には「平和都市宣言」の石碑があり、その横にアンネ＝フランクのバラの花が植えられている。各階にある集会室には多くの人が集い、議論したり、囲碁を打ったり、色々な活動を楽しんでいた。地下（中地下）のスペースには住民が自由に使えるロビーがあり、数人の女性たちが真剣に議論している。「人が集い、つながりを深め、自由な学習を促進する」という理念が根付いていた。

そして一番の特色は障がい者に対して学びの場を提供する「しょうがいしゃ青年教室」と障がいの有無を越えてともに自立する「喫茶わいがや」の存在である。地下にあるスペースには何とも言えない雑駁な雰囲気が出ていた。公の活動はともすれば何らかの意図が強調され整理された雰囲気になりがちだ。でも、ここには縛られない自由が存在した。障がい者は一人ひとりに個性があり、それはそのまま尊重され、余程のことがない限りは受容されている。私達が話していた傍らには、ソファーに寝転がって話を聞く？若者がいた。



これまで30年間以上活動を継続してきた“文化”がこの場所には醸成されていた。彼らは自分達の活動をまとめて「コーヒーハウス」と呼んでいる。障がいがあることで社会とつながることをためらうこともなく、障がい者とどう付き合ったらいいか戸惑っている人も、この場に来れば、淹れたてのコーヒーの芳醇な香りで壁が融けてしまうのだろう。

翻って、私たちの生涯学習大学はどうかと考えてみた。「いつでも、どこでも、だれでも」という理想を掲げながら、果たして障がい者にとって開かれた場所と言えるのかどうか。物理的には、エレベーターもない二階にあるという壁が存在し、事業の開催も時間限定だ。「来るものは拒まず」という姿勢を越えて「誰ひとり取り残さない」という姿勢に転じていくことの必要性を感じる。国立市公民館の活動は一朝一夕にできたものではないと聞かされた。社会の環境が変化した時、どう対応していくかでそこから先の道は分かれていく。判断基準として効果効率性という視点だけではなく、ウェルビーイングの実現を大切にしていけることが大事だと教えてもらった貴重な体験だった。



「SDGs から考える地球環境問題」を担当して



生涯学習センター 田中 裕

今、話題になっている「脱炭素社会」とはどのようなものなのでしょうか？温暖化が進み気温が上昇しているということを耳にしますが、それを防ぐには私たちは何をすべきでしょうか？ そんな疑問を解決したいという思いで、令和4年度は「SDGs から考える地球環境問題」を大きなテーマとして5回の講座を担当しました。前半は講師の方から地球環境に関するテーマで話を聞いて、後半は参加者の皆さんで持続可能な社会について身近な問題を自由に話し合う形の講座です。

現代社会は、大量のエネルギーを消費してCO₂など大量の温室効果ガスを排出しています。またものが溢れる中、大量生産、大量消費により大量の廃棄物を出しています。その結果、地球温暖化によって集中豪雨、台風の大型化、熱波や山火事の多発などの自然災害や食糧危機、水不足が起こり、さらには海や陸の生態系にも影響が及んでいます。このままでは、21世紀末の地球は後戻りが出来ない大変なことになると言われています。安全で住みやすい地球環境を守るために、これ以上の地球温暖化を防がなくてはなりません。そのためには、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする必要があります。化石燃料から再生可能エネルギーへの転換や省エネの向上などで社会の構造を大きく変えることが重要ですが、同時に私たち一人一人が地球環境問題に関心を持って出来ることから取り組むことの大切さも学びました。

受講者の方の感想をいくつか紹介いたします。徳島県上勝町でゴミゼロに取り組んでいる大塚桃奈さんの講演には、「オンライン配信でしたが臨場感をもって聞くことができました」「当事者意識をもって話されていることに、職場の立場以上に物事を感じていると推測しました」「上勝町のゼロウエストセンターに泊まって、ゴミを出さない生活を体験してみたい」などの感想が寄せられました。また株式会社イージーエスの須原寛さんの講演には、「企業サイドからのSDGsの取り組みや考え方などを知ることができて良かった」「SDGsの取り組みは素晴らしく、いろいろな可能性を持っていると思いました」「立派な会社があることが良く分かりました」などの意見がありました。



この一年、あらためて地球環境を持続可能にする事の大切さを感じました。今の地球環境問題は人間が作り出したものなので、人間の知恵や努力で解決して持続可能な社会にして行かなければなりません。

みなさんと一緒にこれからも学び、実践していきたいと思っています。

令和5年度も開催する予定です。ぜひご参加ください。



SDGsとは…

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年の達成を目指し、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

※アジェンダ・・・プラン、計画のこと

17ゴールはカラフルなロゴで表されているため見たことがある方も多いのではないのでしょうか。新居浜市も「令和4年度SDGs未来都市」に選定されています！



★SDGs未来都市とは、SDGsを原動力とした地方創生の達成に向け、「経済」「社会」「環境」の三側面で新しい価値を生み出すことを通じて、持続可能なまちづくりを推進する能力が高い自治体のことです。国（内閣府）が選定しています。





日	曜	講座名	回	テーマ	時間	場所
1	水	◎新・雑談しま専科	10	雑談パート⑥	9:30	生涯学習センター第1研修室
8	水	◎懐かしの心の唄講座	8	童謡、唱歌、ラジオ歌謡な...	10:00	文化センター別館中ホール
		◎人生百年医学講座	8	食べることは生きること	14:00	文化センター別館中ホール
24	金	学んでマナビィ	—	垣生山へ登ろう	10:00	現地

※◎がついている講座は聴講可能講座です。

今年度の講座も残り少なくなってきました。たくさんのご参加ありがとうございました。
来年度もいろいろな講座を予定しております。皆様のご応募お待ちしております。



令和5年度受講生募集のお知らせ

受付期間

3月1日（水）～3月24日（金）

申込方法

受講申込書【募集案内冊子の最終ページ】
に、必要事項を記入の上、受付場所へ
提出してください。
※メール、FAX、郵送での申込は、
生涯学習センター宛に直接送ってください。

※申込多数の場合は、抽選となります。

お問合せ

新居浜市生涯学習センター

新居浜市繁本町 8-65
(市民文化センター本館 2階)
【TEL・FAX】 (0897) 33-2991

【メール】 n-daigaku@city.niihama.lg.jp

～受付場所～

- ★生涯学習センター
- ★高齢者生きがい創造学園
- ★新居浜市役所（5階社会教育課）
- ★上部支所・川東支所
- ★市内各公民館・交流センター